

地域力創造プラン(鳩山プラン)～自然との「共生」を核として～

概要

縄文以来「自然との共生」を基本的な考え方としてきたわが国の歴史・文化に基づき、「人も自然界の一員」という謙虚な姿勢のもと、豊かな自然環境を大事にしながら活力ある地域社会を形成していくため、様々な主体が連携して地域力を高めるための取り組みを支援するというもの

基本となる3つの柱

- ①定住自立圏構想の推進
- ②地域連携による「自然との共生」の推進
- ③条件不利地域の自立・活性化の支援

①「定住自立圏構想」の推進

1. 基本的な考え方

「中心市」の都市機能、「周辺市町村」の環境、歴史、文化など、それぞれの魅力を活用して相互に役割分担し定住の受け皿を形成。

②地域連携による「自然との共生」の推進

1. 基本的な考え方

- 都市住民が、地方における自然環境保護（森や水源の保全等）に関する実践活動に携わることを促進することにより都市と地方のつながりを強化。
- 地方自治体における国土保全対策や地球温暖化対策を促進することにより、世界をリードする低炭素社会を実現。

「自然との共生」を推進

2. 取組内容

- (1) 働き手を都市から農山漁村へ
意欲ある都市住民（若者等）を、農山漁村が「地域おこし協力隊員（仮称）」として受け入れる。
- (2) 「自然との共生」に向けた協定
・都市と地方、又は流域単位で自治体間協定を締結し、都市圏や下流域の住民が、自らの生活を支える水資源や山林等の自然環境を保全するボランティア活動を展開。
・カーボン・オフセット協定（CO₂などの温室効果ガスの削減に関して自治体間や自治体と企業が締結する協力協定）による温室効果ガスの削減のための取組を展開。
- (3) 「自然との共生」による低炭素社会の実現
・地方の豊かな自然（太陽光、風力、水、森林、田畑等）を活用しながら、資源の地域循環を図るなど、環境負荷を低減するための取組を多面的に展開。

③条件不利地域の自立・活性化の支援

1. 基本的な考え方

過疎地域等は、都市部の災害防止、水源の涵養、安心・安全な食料の供給、森林による二酸化炭素の吸収など、都市部を支えているが、人口減少、高齢化、身近な「足」の不足、医師不足、維持が困難な集落の問題など、多くの課題が存在する。

- ・条件不利地域と都市が共生する、日本型の共生社会を実現する必要
- ・都市部を含めた国民全体の安心・安全な生活を確保する必要

2. 取組内容

条件不利地域の自立・活性化への支援を着実に推進していく。

地域医療提供体制の確保
モデルプロジェクトによる遠隔医療の推進
デジタル・ディバイドの解消（ブロードバンド、携帯電話）
集落の維持・活性化対策（「集落支援員」による集落点検の促進等）
都市から地方への移住・交流の促進